

情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）
（多施設共同研究用）

西暦 2019年 3月 4日作成

研究課題名	骨髄異形成症候群に対する同種造血幹細胞移植における予後予測因子の後方視的検討
研究の対象	骨髄異形成症候群と診断され、2000年1月～2015年3月の間に、横浜市立大学附属市民総合医療センターにおいて、初回の同種造血幹細胞移植を施行された患者さん。
研究目的 ・方法	骨髄異形成症候群（以下、MDS）において、同種造血幹細胞移植は治癒を見込める唯一の治療として施行されることが多くなりましたが、その成績については、移植関連死亡や疾患の多様性、患者の合併症など様々な要因が複雑に交差し、予測するのはしばしば困難です。MDSに対し同種造血幹細胞移植を施行した場合の予後を予測する明確なシステムは確立されておらず、より総合的なシステムの構築を要すると考えられ、現在新たなスコアリングシステムが提唱されています。当院とその関連施設で施行された、MDSに対する同種造血幹細胞移植において、治療成績や生命予後はどうであるのかを調査、確認し、スコアリングシステムを検討していきます。
研究期間	西暦 2017年 8月 15日～ 西暦 2020年 3月 31日
研究に用いる 試料・情報の 種類	造血細胞移植一元管理システム（TRUMP）登録項目や、カルテ情報から下記の項目について調査を行います。 <ul style="list-style-type: none">・ 背景情報（移植時年齢、移植年月日、性別、PS、診断）・ 初診時検査所見（骨髄検査、血算、LDH）・ 化学療法の種類、回数、治療効果・ 移植までの期間・ 移植前検査所見（骨髄検査、血算、LDH）・ 移植条件（ドナーソース、HLA 合致の有無、前処置、GVHD 予防）・ 転帰、再発の有無、死因
外部への 試料・情報の 提供	当院における上記に記載している研究に用いる情報は、主たる研究機関である横浜市立大学附属病院 血液リウマチ感染症内科に提供します。提供の際には、集積したデータにパスワードをかけ、インターネットを介して送付します。主たる研究機関では、特定の関係者以外がアクセスできない状態で保管・管理を行います。

情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）

（多施設共同研究用）

研究組織	<p>（研究代表者） 横浜市立大学附属病院 血液リウマチ感染症内科 萩原真紀</p> <p>（参加施設と責任者） 神奈川県立がんセンター 血液内科 部長 金森平和 横浜市立大学附属市民総合医療センター 血液内科 部長 藤澤信 静岡赤十字病院 血液内科 部長 田口淳</p>
<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、検体等の提供者もしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはございません。</p>	
<p>問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 〒232-0024 横浜市南区浦舟町 4-57 横浜市立大学附属市民総合医療センター 血液内科 部長 （研究責任者）藤澤 信</p> <p>電話番号：045-261-5656(代表) FAX：045-241-2812</p>	